

## 19. [絵本勇士子【えほんいさみじし】]

(刊)半紙本一巻一冊  
文化七年(1810)正月刊

(江戸)北尾**蕙**斎政美【きたお・けいさい・まさよし】[画]  
江戸 西村源六【にしむら・げんろく】板  
[江戸]春風堂野代柳湖【しゅんぷうどう・のしろ・りゅうこ】[刻]



**蕙**斎の兄弟子でもある戯作者・山東京伝(北尾政演)が序(計一丁半)を寄せており「(前略)凡【およそ】獅子の尊【たつき】ことあげてかぞふべからず。書肆文刻堂の主人、自此【みずからこの】画本を勇士子【いさみじし】となづけるも、士子は獅子の響【ひびき】をかり、猛将勇子【もうしょうゆうし】のいきほひある、画者の筆意の猛々しきを、獅子のいさむにたとふるの意【こころ】なるべし(後略)文化庚午孟冬 江戸醒醒**齋**京傳識(印)」と記す。

内容は24『略画式』(九丁裏・下左図)でもおなじみの股野(景久と真田与市の巨石投「**蕙**斎と秋圃図柄・筆法の模倣」参照)からはじまって、敦盛と直実、巴御前といった女武者も含まれ、八幡太郎義家まで、源平の合戦の勇者を中心に物語の十四場面を紹介する。彫は、一連の略画式モノと同様、春風堂野代柳湖刻だが、武者や人物は略画ではなく精緻な筆法で描かれ、背景には狩野派風の樹木等もみられる。全丁絵が中心で仮名が中心の平易な文を添える構成であるため、子供むきの絵本として刊行されたか。本書以外の伝本は未詳。